



就 任 の こ と ば

統計課長 石 崎 百 世

このたび7月1日付をもつて、私は統計課長を拝命いたしました。また、統計協会の副会長を同時に拝命することになりました。私はいままで税務課長をしておりましたが、税務におきましても、最近非常に統計が重要な手段として認識されております。行政に科学性を持たせる基盤として、また社会、経済、文化のあらゆる面の発展に寄与する点から、統計の果たす役割は非常に重要であります。聞くところによりますと、本県の統計における業績は、最近、全県から非常に高く評価されているとのことであり、私といたしましても非常にはりきっております。

今日、本県の課題である総合振興計画における産業振興、行政各般の長期計画等の諸施策が、合理的に行なわれ、そのために、統計は基礎資料として欠くべからざるものと考えます。また、最近の経済の発展はめざましいものがあり、日常生活における統計利用の積極的な導入によつて生活水準、福祉水準等に対する科学的合理的な考え方を普及させるため、時宜に適した迅速な、正しい、精度の高い統計の作成が要求されることと思われまします。こうした、いわゆる「データ」行政に対しましても十分提供出来るような統計資料の充実を図るために、これから意欲をもつて努力いたしたいと思つております。

第一線で活躍の統計調査員、市町村統計職員ならびに統計関係者の多年にわたるご努力と豊かな経験の御支援によりに統計をより一層充実させて行きたいと考えます。昨年行なわれた国勢調査をはじめとして各種統計行政に手腕を発揮されました竹内前課長同様に、私に対しましてもよろしく御支援下さいませよう切にお願い申し上げます。就任のごあいさつといたします。

離 任 の こ と ば

参 事 竹 内 精 一

このたび統計課を離れ、新設の企画室に移ることになりました。この間、いくつかの大調査も経験させて頂きましたが、つねに市町村はじめ関係者の方々の御協力を頂きましたことを厚く御礼申し上げます。

さて、私が統計課に参りましたのは、統計課が昭和38年の県機構改革で新設の企画開発部に属することになったのでした。このとき、私はいくつかの希望・期待を持つて参りましたが、その中心は、統計の利用の問題とそれに伴う統計担当部門の地位の問題でした。すなわち、統計は行政の中でもつとつと使われなければならぬ、したがって各部門からは統計に対してもつと注文が出るべきだし、統計はもつと業務に役立つ統計を利用しやすい形で提供しなくてはならぬ、また、そういう状況になれば、県や市町村行政の中で統計の占めるべき地位も自らはつきりしてくるはずだ、そしてわれわれ統計の担当者は、いたずらにまわりの認識不足を嘆くまゝに、このような努力を払うべきだといふことでした。そのため、与えられた統計調査からもう一歩さきへ出ようということで、所得推計をくりかえしおこなった単県調査に手を加えたりもしました。

さて、ふりかえつてみて、その結果はどうだつたでしょうか。事態は今までと全く同じようである気もしますが、たいくらか変つてきたような気もします。その判断は皆さま方にしていただければよいことですが、ただ少なくとも情勢は大きく変つてきていることは確かです。県でも市町村でも、トップは、統計の利用を考えないわけにはいかならなつてきているはずですよ。

複雑多様な事象の処理のためにきわめて細分された分業化が一般化している現在、われわれの生甲斐、仕事の意義というものは、むかしの自己完結的な目標達成の喜びとは違つて、個々の人が分担した仕事の集積されたその意義を見出すほかないと思ひます。統計の日常の仕事は、地味で単調なくりかえしの部分が少なくありません。しかし、そのような労苦の集積としての「統計」は、決して片すみの仕事ではありません。

統計の持つ現代的意義の認識のうえに立つて、行政の質的向上のために、統計、統計的思考、統計的手法を生かすことができるよう、いま、離任という一種解放された気易さのなかで、自分の力の至らなさ、努力の不足は一応悟らされた手なことを言わせて頂きました。

御健勝をお祈りいたします。

統計課の人事異動

7月1日付で、次の方々の異動がありました。

| 転入者 | | | 転出者 | | |
|-----|----------------------|-------------------|-------|------------------|-------------------|
| 氏名 | 新 | 旧 | 氏名 | 新 | 旧 |
| 百世 | 統計課長 | 税務課長 | 竹内 精一 | 参事(企画室付) | 統計課長 |
| 武雄 | 統計課課長補佐兼 人口学事統計係長 | 拓務課課長補佐 | 高塚 繁 | 管財課課長補佐 兼調度係長 | 課長補佐兼人口 学事統計係長 |
| 健三 | 統計課労働統計係 長 | 統計課主幹 (人口統計係付) | 小坪 栄雄 | 管財課自動車管 理係長 | 農林統計係長 |
| 仁 | 統計課主幹 (庶務係付) | 統計課統計主事 | 生井 一郎 | 企画室 | 企画係 |
| 正弘 | 統計課主幹 (広報資料係付) | 統計課統計主事 | 井沢 亮 | 土浦県税事務所 | 人口学事統計係 |
| 和二 | 統計課主幹 (労働統計係付) | 鹿島開発第二課 主幹 | 小泉 幹恵 | 地方課 | 労働統計係 |
| 勉 | 企画係 | 住宅課 | 西山 さと | 長生園 | 企画係 |
| 俊男 | 庶務係 | 管財課 | 今堀 セキ | 水戸保健所 | 経済統計係 |
| 弘 | 企画係 | 常陸太田県税事 務所 | 清水喜代正 | 農業改良課 | 庶務係 |
| つや | 庶務係 | 大宮地方福祉事 務所 | 大内 春枝 | 県北振興事務所 | 〃 |
| 永子 | 商工統計係 | 友部病院 | 後藤みち子 | 出納事務局 | 商工統計係 |
| 文子 | 人口学事統計係 | 議会事務局 | 福田 邦子 | 土浦劳政事務所 | 経済統計係 |
| 隆 | 庶務係 | 県民文化センタ ー建設事務局 | | | |
| すみ | 経済統計係 | 建築課 | | | |
| とき | 労働統計係 | 耕地第二課 | | | |
| 恵子 | 企画係 | 道路補修事務所 | | | |

個人企業経済調査新らたに 日立市、那珂町で実施

この調査は、従来水戸市のみ実施されていたが、本年に拡大改正され、調査精度の向上をねらいとした、地域の拡大等にともない日立市と那珂町が新たに加わった。個人企業の実態を把握する上に重要な資料となるので、従来国民所得の推計のための資料をうるたに行なわれて来たものであるが、近年、経済力測定の資料として、また、小企業における合理的な経営の資料とし、中広い利用がなされている。

食糧消費総合調査を11月に

食糧消費総合調査は、近年急速な発展をとげた経済状態の中で、多種、多様化する食生活の実態を、食料品の消費、食生活の環境、栄養の健康等の総合的な家族生活の立場から、地域別、所得階層別および類型別に調査して、食糧需給計画、消費者家計の安定などの基礎資料とするために、農林省と厚生省が、共同で1月に行なうものである。

近着図書紹介

昭和40年国勢調査報告（茨城県）刊行さる

昨年10月1日に行なわれた国勢調査の結果についてはすでに本誌1966, No.1に公表したが、このたび総理府統計局から報告書（茨城県編）が刊行された。この報告には、市町村別人口面積、男女別年齢、就業状態、産業、職業、従業上の地位別人口、世帯等について調査の結果を収録している。

また、各都道府県の主な結果数字を要約解説し、図表をまじえた資料編ともいえる人口総覧が都道府県ごとに分冊刊行されるが、その本県版が近く出来る予定になっている。これらを合わせて、行政施策あるいは、産業、文化学術研究などの資料として広く利用されたい。